

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立池尻小学校

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～豊かな心を持ち、自立してたくましく生きる児童の育成～						
重点目標		・自立して未来に挑戦する態度の育成 ・「生きる力」を育む教育 ・子どもたちの学びを支える仕組みの確立						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な知識技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や課題を最後までやりきらせるよう支援する。 ・漢字や計算などの小テストを実施する。 ・めあてを提示し、ふり返り等で理解を確認しながら授業を進める。 ・校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。 ・他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出率が90%以上になる。 ・小テストを月4回以上行う。 ・すべての教員が年1回以上授業を公開する。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 ・他校の研究会に一人一回以上参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出は、各クラスのほぼ決まった児童が未提出となっている。全体としては、93%になっている。 ・小テストをほぼ月4回以上行い、習得の確認ができた。 ・すべての教員が年1回以上授業を公開し、事後研でさらに深めることができた。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答では、Aが81%、Bが17%で、合計98%になった。 ・他校研究会に1回以上参加し、授業力向上・授業改善について考えを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題がなかなか提出できない児童については、家庭に協力をお願いしたり、学校で可能な限りやりきらせる。 ・今後もさらに授業力の向上と授業改善を目指し、教材研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下がきれいであり、掲示物などの工夫が見られ、学習環境が整っているのが良い。 ・音読が十分にできていない子がおり、学習支援ボランティアの活用などで改善をはかれないか検討していてもよいのでは？九九などを聞いてもらうなども支援ができるのではないか。 ・教員同士が刺激し合い向上をめざす関係が構築されていると感じた。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 ・読書活動を充実させ、自ら学び探求する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEやICTを活用した分かる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。 ・全校一斉の朝読書の時間を週3回実施する。 ・読書記録カードを活用することで読書意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上になる。 ・週60分以上の読書量を確保する。 ・意欲的に読書しようとする児童が増える工夫をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答では、Aが54%、Bが39%で、合計93%となった。 ・NIEやICTを活用した授業実践をすることができた。 ・朝読書の習慣が定着してきており、静かにじっくり読書ができるようになってきている。 ・もう1冊借りられる券がもらえるということで、意欲的に本を読む児童が増えた。 ・読書ボランティアや保護者と協力して図書室の本を整理しPC化を進めた。 ・家庭での読書ができていないことが課題である。家で読書をしているでは、Aが39%、Bが31%で、合計70%とあまりのびが見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEやICT、授業力向上の研修を行い、児童の興味を引きつけるような授業改善を目指す。 ・生活・学習ふり返りカードで、家庭学習の習慣をつけていく。 ・学習の定着度が悪い児童への、放課後の学習を充実させる。 ・図書の時間に本を借りたり、朝読書をする時間を確保し朝読書の時間を充実させる。 ・学習の合間を利用して本を読む習慣をつけさせる。 ・読書ボランティアや保護者と協力して図書室の本を整理しPC化を進めた。 ・家庭での読書ができていないことが課題である。家で読書をしているでは、Aが39%、Bが31%で、合計70%とあまりのびが見られない。 ・週末読書などの宿題をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書ボランティアの協力で図書室のデータベース化が推進できたことがよかった。スムーズに図書の貸し出しや返却ができ、読書時間の確保にもつながっている。 ・家庭での読書時間を増やすのは難しい。おうちの人と一緒に本を読む時間などを作ってもらいたいが、個々の家庭状況もありなかなか進まない現状がある。 ・幼稚園から読書週間や生活習慣の確立について家庭への啓発を行い、幼小の接続をはかっていきたい。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を随時、校内委員会を月1回行いニーズに応じて組織的な支援体制を構築する。 ・校内研修を年に2回以上行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、ケース会議で話し合うべき事例をあげることができた。ケース会議や校内委員会を月1回行い、実態把握と今後の対応について話し合うことができた。 ・コンサルテーションや教育相談を必要に応じて活用した。 ・校内研修を年度初めと年度末の2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからもさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりについて共通理解し、困り感を持っている児童への適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き個々に応じたきめ細かい支援をしていってほしい。 ・特別支援についての研修を幼小で連携して進めていければ良い。
	子どもの問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動に対する指導体制を充実させる。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を理解し、指導の徹底を図る。 ・関係機関と密に連絡を取り相談する。 ・いじめアンケート調査を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を年に2回以上行う。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、児童の共通理解と指導方法の共有を行った。 ・問題行動が起こった際は、関係学年と生活指導が一体となって組織的に対応することができた。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が97%、「学校へ行くのが楽しい」との回答が89%となった。 ・いじめアンケートを活用して児童の心情や友人関係を把握し、問題の兆候があった場合は早期対応を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも児童の実態把握に努め、きめ細かく対応していく。 ・子どものよりよい成長のため、保護者や地域とさらなる連携を図る。 ・不登校傾向の児童について組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時一人で歩いている子もおり気になる。学級全体などみんなで様々な問題を話し合うことも大切である。道徳の時間の充実も図ってほしい。 ・学校全体として落ち着いていると感じる。それを継続していくことが大切である。大人が見本を見せて、地域と学校が連携して子どもたちを見守っていくことが大切である。

豊かな心・健やかな体	健康教育の充実	・児童の体力の向上を図る。	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・全校業間縄跳び大会を実施する。 ・各学年に応じた運動プログラムをより具体的で簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。 ・全校業間縄跳び大会を年3回実施する。	A	・「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が93%となった。 ・全校業間縄跳び大会を年4回実施し、長縄記録を伸ばそうと、運動場で業間休みに練習する姿が見られた。 ・学年が上がるに連れて、休み時間に外遊びをする児童が固定化されてきている。 ・委員会活動の一環としてドッチビー大会やおにごっこを実施した。	・年間通して業間休みに外で活動できるような運動や遊びを体育や学活等の時間に紹介する。 ・ロードレース・陸上大会・いたっボール・すもう大会などへの参加を促し、練習を重ね大会で結果を出すことで、運動への意欲づけを講じる。ただし休み時間の指導や休日の大会参加について教職員の負担感が増えないような方法を考えていく必要がある。	・積極的に陸上や相撲などの大会に参加しているのは自尊感情を育てるためにも良いことである。教員の負担を減らすためにも保護者や地域の協力を考えていくのも良い。
	健全な食生活の推進	・食生活に関心を持ち、健康に生活しようとする児童を育成する。	・食育を給食の時間や授業において推進する。	・児童アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」との回答が90%以上になるように働きかける。 ・給食の残食がなるべくゼロになるようにする。	A	・児童アンケートにおいて、「毎朝朝食を食べている」との回答では、Aが79%、Bが15%で合計94%となった。 ・食べ物が自分の健康につながっていることを意識し、栄養バランスに気をつけて給食を残さず食べようとする児童が増えた。 ・栄養教諭とも連携して、食育を推進することができた。	・栄養教諭と連携し、授業で食事や栄養について取り扱ったり、給食センターからの献立に関するプリントを使ったりし、より食に対する関心を深めていく。 ・クラス全体で残食0を目指していく。	・給食を通して栄養について学ぶことは生きていく上で大切なことである。栄養士の授業があることも良い。 ・家庭と連携しながら取り組んでいくことが必要である。
開かれ信頼される学校園	学校情報の発信	積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・マナーや生活のきまりを学校だよりに月目標として掲載する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答が90%以上になる。	A	・学校だよりは月2回以上発行した。 ・ホームページで学校の様子を毎日知らせることができた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答では、Aが55%、Bが44%で合計99%となった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答では、Aが38%、Bが56%で合計94%となった。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学年便り等で生活振り返り習慣の実態を公表したり良い取り組みや課題を紹介したりして、家庭でも工夫改善策が講じられるようにする。	・ホームページや学校だよりを地域にも配布することで情報発信を積極的に行っている。 ・ベルマークやインクカートリッジの回収もPTAから様々な情報発信をし目標を持って集めることができた。地域にも協力してもらえばより集まるのではないかな。

学校関係者評価総括
・教師が団結し同じ価値観で指導していることが大切である。
学校全体として落ち着いて学習に取り組んでいるのでそれを継続していくことが大切である。教職員のレベルアップも図ってほしい。
・中には落ち着きのない子も見られるので、情報共有し早めに対応していくことが大切である。

次年度に向けた重点的な改善点
・漢字・計算などの小テストを行うことで、基礎学力の定着をはかり、授業の工夫をすることで児童の学習に対する意欲の向上につながった。
・読書週間や図書ボランティアの協力で児童の読書量が伸びた。しかし家庭での読書時間の確保にまだまだ課題が見られる。
・ホームページや学校だよりの地域への配信により、保護者や地域へ、積極的な発信ができた。
・校内研修会を年2回行い、児童の問題行動等の共通理解を図ってきた。「学校へ行くのは楽しい」と考える児童が増えている反面、不登校傾向の児童や問題行動などさまざまな課題が残っている。さらに教師相互の連携と保護者・地域との連携の必要がある。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った